

# 3-8

演題	介護業界に未来がきた!!
副題	～記録ソフト・インカム・離床センサーの導入～

ICT 活用
業務効率化

法人名	社会福祉法人 松緑会
施設名	松みどりホーム

発表者名 (職種)	田中 知恵美 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	岡本 有紗	住所	横浜市戸塚区原宿 2-56-3
共同発表者	小倉 青龍	TEL	045-851-8087
共同発表者	巴 瑛由	FAX	045-852-4803
共同発表者	三橋 紘二	メールアドレス	matumidori-home@srk.or.jp
		URL	https://www.srk.or.jp/home/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人松緑会 特別養護老人ホーム松みどりホームは横浜市戸塚区にある介護老人福祉施設です。 現在は 72 名定員の施設で、季節の行事や同一法人の『松みどり保育所』との交流を通じた“老幼の環”に取り組んでいます。
---------------------------	--

## 研究の目的、PR ポイント

昨今、様々な業種で ICT 化が急速に進み、人材不足に対する業務効率の改善が促されている。新しいものを導入したことによる業務効率の向上や、導入する際の職員の不安や定着するまでの過程を、ここに報告します。

## 取り組んだ課題

当施設において、手書きでの記載や伝達、共有における時間が全体の業務を圧迫していた。重要な情報については、施設内で対象職員を探し回らなければいけない事が多く見られた。又、多床室の施設において、居室内の利用者様の行動の把握が困難で、自身で離床困難な方が、離床し、転倒しているケースが見られた。これらの状態の改善を ICT 化を行うことで、解決できるのではないかと考えた。

## 具体的な取り組み

- ① 手書きでの業務圧迫…【記録ソフトの導入】  
導入するにあたり、いくつかの課題が挙げられた。
  - ・ どのソフトを入れればよいか？  
→複数のデモを使用し、施設にあったソフト選定をおこなった。
  - ・ パソコンが苦手な職員が多い  
→無料の記録ソフトをデモ導入し、練習していった。
  - ・ ネット回線が施設全体にない  
→通信環境改善工事を実施し、PC やタブレット端末を準備していった。
- ② 居室内での転倒…【離床センサーの導入】  
居室内での転倒事故を防ぐ為、ラウンド回数を増やしていたが、それでも発見が遅れる場合があり、職員の心理的な負担に加え、業務時間を圧迫していた。  
→ベッドの足元に敷く離床センサーを全利用者の居室へ設置した。
- ③ 必要な情報共有の円滑化…【インカムの導入】  
外部からの電話を他課に繋ぐ際や、利用者様の急変で、看護師を探す際に、内線での応答がないと、施設内を探し回らなければいけなかった。

→全職員分のインカムを用意し、リアルタイムでの情報共有をルール化した。

## 活動の成果と評価

ICT 化を行う前後に在籍していた職員 27 名を対象に、「とてもよい・よい・どちらでもない・あまりよくない・よくない」の 5 段階での回答と、その理由の自由記載で評価を行った。

- ① 記録ソフト  
とてもよい、よいと回答した職員が 92% で、情報の共有と伝達が行いやすい、一元管理ができる、書類が散らばらない等のポジティブな意見が多く聞かれた。ネガティブな意見の中には、「職員によって操作が出来ず、情報が統一されにくい」との意見もあった。
- ② 離床センサー  
とてもよい、よいと回答した職員が 96% で、ラウンドに回る時間が減ったことで別の業務を行うことが可能となった、利用者さんの動きに対して精神的な負担が軽減された等の意見が多く聞かれた。
- ③ インカム  
とてもよい、よいと回答した職員が 86% で、外部からの電話連絡がスムーズ、入浴やイベント時の流れがよくなった等のポジティブな意見が多く聞かれた。これら ICT 化によって、業務効率が向上し、カンファレンス会議やレクリエーション等を日中に充実させることが可能となった。

## 今後の課題

今回の研究では、デモを用いての練習や ICT 化における意義を明白にしたことで職員にも目的意識が芽生えた。苦手意識の軽減につながり、ポジティブな意見が多く聞かれたのではないかと考える。しかし、働く年齢層や国籍が幅広く、機器によって統一した対応が取りづらいという一面もあり、今後の課題となっているのではないかと考える。